

■佐藤義亮 書籍出版業者。〔新潮社〕を興し、自らも諸文を発表しながら、文芸出版の本流に。
さとうぎりょう
大久保暗殺・1878＝ 秋田県仙北郡角館町岩瀬で、荒物屋を営む為吉・とくの四男に生まれる。幼名儀助。父は商売に向かない性格で、一家は豊かではなかったが、_半面読書好きで書画を愛する文人的傾向の父から影響を受けて、向学心にあふれ、

明治14年政変1881＝ 3歳：
新体詩抄・・1882＝ 4歳： 小学校に入学を希望するも身体が小さ過ぎると断られ、
岩倉具視没・1883＝ 5歳： 角館尋常小学校に入学、

帝国大学始・1886＝ 8歳： 学校側のミスで、1年早く高等科に進み、
国民之友始・1887＝ 9歳：

帝国憲法発布1889＝11歳： 家の蔵書を読み尽すと、父から頼山陽の「日本外史」を与えられ、寺の住職から漢文の指導も受けて、
帝国議会始・1890＝12歳： 読了、以後、山陽を深く尊敬するとともに、漢学の初歩もマスターして行く。角館に初めて書店ができ、
足尾鉋毒始・1891＝13歳： 卒業。_中学校への進学を望むも叶わず、〔中学講義録〕で独学のほか、次々と本を買ってもらって読破、雑誌に投稿する面白さも知って、後の出版事業の原体験となる。
郡司千島探検1893＝15歳： 父の後押しを受けて、大曲町の小学校校長浅沼正毅の書生となり、秋田市の私塾〔積善学舎〕に入学するが、
日清戦争始・1894＝16歳： 博文館の〔学生筆戦場〕に_投稿して活字になり評価もされるようになるとたまたず、
日清戦争終・1895＝17歳： 学友誘い_東京へ出奔、秀英舎の職工となり、立読みした〔国民之友〕で頼山陽の言葉に感動、雑誌に投稿して田岡嶺雲の選で一席となり、それが支配人の目に留まって校正係に抜擢されて、雑誌出版へ興味抱き、
白馬会・・・1896＝18歳： 下宿のおかみさんが資金援助してくれ、_東京市牛込に新声社を創出して投稿雑誌〔新声〕を創刊、
八幡製鉄始・1897＝19歳： 郷里の文学青年らの圧倒的支援を得ると、秀英舎を退社し、時間的余裕とれる明治書院の編集員となるも、雑誌に専念すべく退社、新声社の看板を掲げる一方、中根龍子と結婚。
子規句歌革新1898＝20歳： 龍子の弟中根駒十郎が入社し、以後片腕となる。自らは文学者を断念したが、志に共鳴して、金子薫園、
Bushidou・・1899＝21歳： 高須梅溪が入社。_経営難打開すべく「大日本文章学会講義録」出版開始し好評得ると出版世界への参入企図し、
ビアノ国産化・1900＝22歳： 長男義夫(のち新潮社第2代社長)が誕生。故郷角館から田口掬江が上京し入社して_盤石に見えたが、
田中正造直訴1901＝23歳： 同郷の平福百穂が入社。新声社に電話を架設。_「(文壇照魔鏡)と謝野鉄幹」出版がトラブルとなり、
教科書疑獄・1902＝24歳： 大日本文章学会を日本文章学院と改名。書下ろし小説〔アカツキ叢書〕刊行開始するも、
日比谷公園・1903＝25歳： 経営不振となり、新規巻き直しを決意したところに、引き取り手が登場し_〔新声〕を譲渡、
日露戦争始・1904＝26歳： 次男が誕生。*その譲渡金を盗まれるという苦難を乗り越え、新潮社を興して〔新潮〕を創刊し、義亮と改名。
日露戦争終・1905＝27歳：

_自ら広告をとるべく〔大日本国民中学会〕のために本を書くなど奮闘する一方、新声社時代からの高須梅溪・田口掬江・金子薫園らの執筆協力を得、妻の弟中根駒十郎の経営手腕によって、母が死去。真山青果「青果集」刊行で本格的文芸が始まり、青果の推薦により中村武羅夫が入社。
アヲヲヲ創刊・1908＝30歳： 真山青果「病牀録」刊行。_国木田独歩救済のために田山花袋らが企画し、島崎藤村ら新進作家の自選作を収めた「二十八人集」刊行して一流出版社の地位を築く。直後に独歩が死去し、〔新潮〕で国木田独歩特集号。
伊藤博文暗殺1909＝31歳： 新潮社の翻訳本の先駆ツルゲーネフ「父と子」と小栗風葉「金色夜叉・終編」刊行し何れも大ヒット。以後、現在も新潮社の校閲の優秀さに定評があるように、書物の完成度に強いこだわりをもって、企画出版、
韓国併合・・1910＝32歳： 父と京都・奈良に遊ぶ。翻訳「散文詩」「貴族の家」出版、
大逆事件判決1911＝33歳： 生田長江によるニーチェの「ツァラストラ」の完訳を刊行するなど、_とくに翻訳出版では先駆となり独走。
明治天皇没・1912＝34歳：
大正政変・・1913＝35歳： 翌年にかけて〔近代名著文庫〕と島崎藤村〔緑蔭叢書〕刊行。_牛込区矢来町の家を購入、定着し新社屋建設。
第一次大戦始1914＝36歳： _苦境の芸術座の救済に当たり、脚本「復活」刊行し、劇は大ヒット。ドイツのレクラム文庫に倣い、〔新潮文庫〕創刊(第一期・翌年まで)し、文庫本時代を切り開く。

21ヶ条要求・1915＝37歳： 翌々年にかけて〔情話新集〕刊行。
民本主義・・1916＝38歳： 翌々年にかけて〔トルストイ叢書〕刊行。江馬修「受難者」刊行。
ロシア革命・1917＝39歳： 翌年にかけて純愛中編小説集〔エルテル叢書〕と〔有島武郎著作集〕刊行。_〔新進作家叢書〕は数年続き、
本格政党内閣1918＝40歳： _以降4年〔ツルゲーネフ全集〕が大好評など、悉く成功するが、胃腸病が悪化、帰郷し鶴沼海岸へ転地。
ベトナム条約・1919＝41歳： 〔啄木全集〕全三巻刊行。以後7年、〔泰西名詩選集〕刊行。_文章講義録はこの年まで続いた。
大暴落・・・1920＝42歳： 以後6年、〔世界文芸全集〕刊行。_新潮社専属の印刷工場富士印刷を創設し、社長を兼務。
原敬首相暗殺1921＝43歳： 四女を最後に四男四女を授かった。
水平社結成・1922＝44歳： 故郷の角館に初めて図書館ができると、新潮社の出版物を寄贈することにし、現在も続いている。
関東大震災・1923＝45歳： 父が死去。孫亮一(第3代社長)が誕生。_新社屋の落成記念祝賀会直前に関東大震災が発生も被害無し。
護憲三派圧勝1924＝46歳： 〔演劇新潮〕創刊も翌年廃刊。_極度の胃腸障害のため、群馬県伊香保や愛知県蒲郡に転地。
治安維持法・1925＝47歳： 月刊誌〔婦人の国〕創刊も翌年廃刊となるも、この前後の*出版点数はピークに達し、
金融恐慌・・1927＝49歳： _〔世界文学全集〕全38巻は、以後3年間に53万部を売り上げて新記録を樹立。
共産党事件・1928＝50歳： 以降3年、_第二期〔新潮文庫〕刊行、日本ブームの一翼を担い凱歌を上げる。
世界恐慌・・1929＝51歳： 〔文章倶楽部〕を〔文学時代〕と改称。
海軍軍縮条約1930＝52歳： 〔世界現状大観〕全3巻刊行。
満州事変・・1931＝53歳：
五一五事件・1932＝54歳： 以後3年〔日本文学大辞典〕刊行。_大衆雑誌〔日の出〕創刊、敗戦まで続く。日本雑誌協会副会長(2期4年)。
国際連盟脱退1933＝55歳： 現在まで続く第三期〔新潮文庫〕刊行開始。最愛の三女和子が死去、宗教団体〔ひとのみち〕に入る。
芥川直木賞始1935＝57歳： 角館に帰省した際、角館小学校・中学校・女学校で「歓ぶこゝろ」講演。_以後、人生修養の書を著述し、
二二六事件・1936＝58歳： _創立40周年記念事業の一つとして新潮社文芸賞を設定。自著「生きる力」、
日中戦争始・1937＝59歳：
健保+総動員1938＝60歳： 〔新潮〕四百号記念号刊行。_自著「向上の道」、
第二次大戦始1939＝61歳： 〔有島武郎創作全集〕刊行。_自著「明るい生活」を刊行。
日米開戦・・1941＝63歳：
近代の超克・1942＝64歳： *軽い脳溢血により倒れ、やがて脳の衰えが始まる。
年金+総武装1944＝66歳： 練馬東大泉の別宅に疎開。脳軟化症と診断されるも、株式会社となった新潮社の名義上の社長となる。
敗戦・・・1945＝67歳： _秋田県横手町の甥の家に疎開。富士印刷焼失。牛込の本宅罹災。帰京し東大泉別宅に戻る。
新憲法公布・1946＝68歳： 社長を辞職。
新憲法施行・1947＝69歳： 〔小説新潮〕創刊。
極東裁判決・1948＝70歳： 公職追放の指定を受け、
三大事件・・1949＝71歳： 〔銀河〕創刊。
朝鮮戦争始・1950＝72歳： 〔芸術新潮〕創刊。_床に就き、起きられなくなり、
独立回復・・1951＝73歳： _追放解除となるも理解できないまま、没した。